

感覚環境のモノサシをまちづくりに織り込むために

“いい感じ” の まちづくり

環境省



"いい感じ"が 感覚環境の モノサシ

理由はわからないけど、なんだかちよつと“いい感じ”。ふとした瞬間、あなたが感じた心地良さ。それを感覚環境^{※1}のモノサシにします。

※1：感覚環境

外界からの刺激を目・耳・鼻・口・肌などの感覚器官で感じる働きと、それによって起こる意識が感覚です。視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感の他に、温覚・冷覚・痛覚などがあります。こうした、モノ・カタチにならない人間の感覚により認識される環境を感覚環境といいます。

感覚は環境を知るセンサー



水辺をそぞろ歩いていると、水面にきらきらと反射する光、頬を優しくなでる風に爽やかな心地よさを感じ、また土手の草原に座れば、穏やかなせせらぎと太陽のぬくもり、そしてほのかに漂ってくる花のかおりにほっと人心地がつく——「きらきら反射する光」は目から、「せせらぎ」は耳から、「太陽のぬくもり」は肌で、「花のかおり」は鼻で感じています。

このように、人がまわりを認識するときには、音、かおり、光、ねつなどを体全体の様々な感覚で感じ取っていますが、私たちは普段、こうした様々な環境に取り巻かれながらも、とりたてて意識することもなく暮らしています。

感覚環境のモノサシを使う

音・かおり・光・ねつといった感覚環境は、私たちの暮らしに、どのような影響を与えているのでしょうか。

感覚環境は移ろい、変化しながら、その場、その時でしか味わえない空間を演出します。さらに、光や音、かおり、風などをきっかけとして、かけがえのない思い出がふと蘇ってくることもあります。音・かおり・光・ねつから、季節や時代の移り変わり、そのまちの個性やそのまちならではの雰囲気といったものが思い起こされます。

普段何気なく感じているこれらの感覚が、より良く、より豊かに暮らしていくための重要な役割をもっていることに気づくこと、そして、“いい感じ”かどうか評価すること、感覚環境のモノサシをうまく使うことが大切です。このよ

うなことを通し、より深く地域の魅力や特性を捉え、次世代へと伝えていくことが必要です。



いい感じ



いやな感じ

"いい感じ"を まちづくりに いかす

みんなに共通する“感覚のモノサシ”をそれぞれのまちでつくりあげていくことが、“いい感じ”をまちづくりにいかす第一歩です。

感覚環境のモノサシをまちづくりにいかす

感覚環境のモノサシをまちづくりにいかす段階には、「みつける」「つなげる」「うごく」の3つがあります。

みつける

意識してまちを歩き、まちの“いい感じ”を発見します。普段、無意識に接してきた暮らしの中の音・かおり・光・ねつに注意を払い、時間による移ろいや相乗効果についても考えてみましょう。日常のちょっとした気づきの積み重ねが、あなたの中の“いい感じ”のモノサシを呼び覚まします。

つなげる

みつけた感覚環境を、まちのみんなとわかちあいます。同じ感覚刺激でも人により感じ方は様々ですが、互いの感覚をつないで共通の“感覚環境のモノサシ”をつくっていきましょう。“いい感じ”の共感がまちへの思いと目標の共有を促すほか、その過程がまちの魅力の再発見を助け、まちへの愛着や誇りを育みます。

うごく

“感覚環境のモノサシ”を使って、みんなで共有した“いい感じ”のまちをこれからも残していきます。“いい感じ”のまちを広めたり、訪れたり、より良いものにするためにひとりひとりが活動します。また、“感覚環境のモノサシ”を使い、感覚環境の視点からまちを見直す機会も設けていきます。



みつける

1分間その場所で目を閉じてみましょう。20分、その場に座ってみてもいいでしょう。60分まちの中を歩いてみてください。感覚を研ぎ澄ますと、今まで何気なく歩いていた道が、いつもと違うように感じられませんか。



「みつける」は、普段の暮らしの中で無意識に接してきた感覚環境に注意を払い、気づく段階です。感覚環境を理解する一番の近道は、実際にまちに出て、様々な感覚を体感することです。

でもその前に、音・かおり・光・ねつといった感覚要素の基本的な特徴を理解し、感覚のスイッチをオンにする方法を知っておかなくてはなりません。感覚のスイッチがオフになっているのは、せっかく豊かな感覚環境の場面に遭遇しても、気づかず通り過ぎてしまうからです。

感覚について理解できたら、実際にまちに出て、音・かおり・光・ねつなどを意識してみつけてみましょう。その時、まちの中ではそれぞれが関連しあい、しかも時の移ろいの中で刻々と変化していることに注意が必要です。

みつけた感覚は、絵やことばにして記録しておきましょう。これらの情報は、機械で測定した数値情報ではありませんが、あなたの“感覚環境のモノサシ”を使って測った、まちの感覚環境の状態を示す貴重なデータになります。

音

「音」はモノやカタチにならないからこそ、人の感性や、記憶に強く訴えかけ、空間の印象や質の豊かさを左右します。そして、その良さは、単に聞きやすいかではなく、そのまちの文化的・社会的状況にふさわしいかが重要です。

よりよい音環境を実現するには、まず音環境の実態を知り、感じ直すこと。その上で、望ましくない音の防止に加え、音の遺産・物語といった音の背後にある魅力や価値を再発見し、それらをいかしていくことが求められます。



音環境の成り立ち

分類	特性
基調音	持続的に聞こえている、音環境の「地」となる音。
信号音	信号、合図としての機能を持ち、音環境の「図」となる音。
標識音	ランドマークに対応するまちを象徴する音。人々から尊重され、そのまちらしさを担うとみなされる音。
騒音	他の音をかき消し、その環境の社会的・文化的状況にそぐわない、人々から「望ましくない」と判断される音。

聞こえる音をその特性で分類すると、音環境の全体像が理解できます。

かおり

「かおり」は、地域の自然や人間の営みの副産物であり、まちに馴染んだ独特のかおりはそのまちの個性です。そして、育った環境・文化・経験の違いで好みが大きく左右され、また、記憶や感情と深く関わっていることも特徴です。

よりよいかおり環境を実現するには、まず日常的に意識してかおりにふれ、感じたことをことばで表現すること。そして、まちの自然・歴史・文化に関わるかおりを、まちの個性として積極的にいかしていくことが求められます。



かおりを感じるしくみ



まちのかおり(寺町の線香)

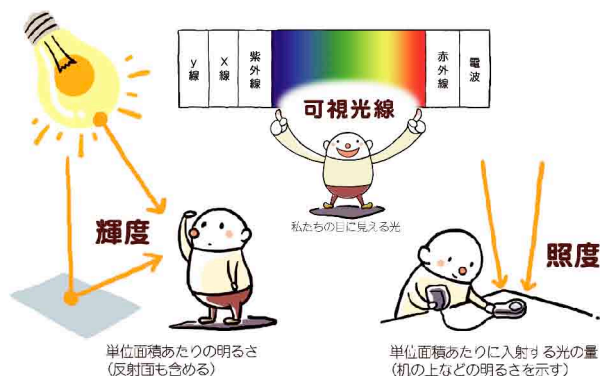


自然のかおり(梅の花)

光

「光」は視環境の源泉であり、ものの見え方を大きく左右します。特に、光の量については「照度」でなく、従来おろそかになっていた「輝度」による、感じる明るさ・暗さの演出が重要となります。

よりよい光環境を実現するには、光の無駄使いをやめ、量から質へその意識を転換すること。そして、陽光や灯といった自然光から、良い光の原点を学ぶこと。そして、それぞれのまちの歴史・文化・風土・人々などの個性を、光によって表現することが求められます。



光に関わる大切な要素

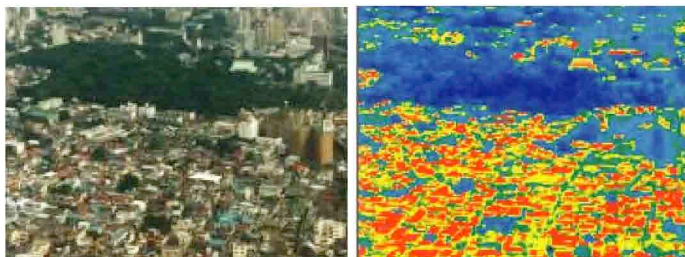


まちの個性となる光(左:ならの燈花会/右:南の島星まつり)

ねつ

「ねつ」は、気温だけでなく、湿度・風速・放射(下図参照)が影響します。太陽の光を浴びて蓄熱した道路やビルからの放射と、エアコンの室外機からの廃熱が、都市をさらに熱くしています。

よりよいねつ環境を実現するには、風や緑、打ち水などといったの自然な方法でその緩和を試みる。そして、エアコンに頼らずに快適に過ごすため、四季折々の衣・食・住の文化を改めて見直し、それらをまちの個性として積極的にいかしていくことが求められます。



建物の屋根が高いのに対し、森の温度が低いことがわかります。
(資料提供:東京工業大学・梅干野晃教授)

複合化

音・かおり・光・ねつといった感覚要素は、実際のまちでは、互に関連し合って存在しており、場の心地よさは、感覚の複合ワザから生まれます。また、ある感覚が別の感覚を連想させたり、感受する側の気持ちにも左右される、複雑で繊細なバランスの上に成り立っています。

複合的感覚をまちづくりにいかしていくには、感覚環境の複合化が成功している“いい感じ”の場所をじっくり味わい、その構成要素や相互関係など、いろいろな角度から探る必要があります。また、俳句などで情景を切り取ったり、時間の変化で移ろいを感じたり。要素間の相乗効果をとらえ、あるいは“いい感じ”の拠点を発掘・創造し、地域全体とのかかわりや変化を見守っていくことが求められます。



感覚の複合化の例(「名水体験」食文化の風景学/小林亨より作成)

つなげる

今聞こえた小学校のチャイムの音に、あなたは何かを感じましたか。今年1年生になったあの子には、どんな風に聞こえたのでしょうか。個人の感覚体験を別の誰かとつなげてみると、ありふれた感覚の中に新しい発見が生まれます。

「つなげる」は、みつけてきた感覚環境をわかちあう段階です。本来主観的な感覚の情報を、人に伝えやすく絵やことばなどで整理しながら、別の誰かと“感覚環境のモノサシ”を共有していきます。

例えば、みんなで一緒にまちを歩き、“いい感じ”のまちについて考えたり話し合ったりするワークショップのほか、ブログやホームページ、WEB上のマップを使って多くの人からの情報を集め、まとめていくという方法もあります。感覚をテーマにした公募や写真・俳句などのコンテストを開くのもおもしろいですね。

いずれにしても、“感覚環境のモノサシ”を共有していくプロセスそのものが、まちに暮らす人々が互いに理解を深め合ったり、埋もれていた地域の魅力を再発見したり、まちの将来目標を描いたりといったことにつながり、ひいてはまちへの愛着を深める機会にもなるでしょう。



うごく

まちの“いい感じ”は発見できましたか。みんなで“感覚環境のモノサシ”を共有することができましたか。感覚環境という新たな視点によって、日々過ごしているまちの姿が、今までとは少し違って見えてきたのではないのでしょうか。

「うごく」は、“いい感じ”のまちを伝え、育んでいくために、ひとりひとりが活躍する段階です。まずは、“いい感じ”のまちづくりをご近所や友人に広めましょう。そして、“いい感じ”の場所に名前をつけたり、他のまちの“いい感じ”を訪れ勉強したりするのもいいでしょう。“感覚のモノサシ”を共有した仲間と、“いい感じ”のまちづくりを行政に提案できたらすごいですね。

また、“感覚環境のモノサシ”で繰り返しまちを見直してみると、以前見つけた“いい感じ”が無くなっていたり、新たな“いい感じ”がうまれているかもしれません。

「みつめる」「つなげる」「うごく」を繰り返しながら、少しずつ場の居ごこちやまちの住みごこちをよくしていく。ゆっくりとじわじわ効いてくる温泉の効能のような、感覚環境の視点からの“いい感じ”のまちづくりを、みなさんもいつしよにはじめてみませんか？

“いい感じ”のまちづくりのヒント

計画・設計・整備、その後の変化のモニタリングなど、“感覚環境のモノサシ”はまちづくりの色々な場面で、その方向性を判断する1つの基準となり、まちづくりに関わる人々の相互理解や合意形成を助けます。また、「みつめる」「つなげる」「うごく」のプロセスが、まちへの愛着を育み“いい感じ”のまちを継承していく原動力となります。

"いい感じ"の まちづくり 事例集

すでに各地で行われている、「いい感じ」のまちづくりを紹介します。

1 大丸有地区再開発 (千代田区)

ヒートアイランド緩和のための屋上緑化や街路樹整備、散水・打ち水のプロジェクトのほか、イルミネーションやクラッシュクックなど光や音のイベントも開催。



大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会
<http://www.lares.dti.ne.jp/tcc/index.html>

2 五感で楽しむ奈良 (奈良県)

五感で楽しめるいきいきとした魅力を奈良に加えていきたいという趣旨で「五感で楽しむ奈良」を公募し、全国2,207件の応募の中から、108件を選出。



私のおすすめ「五感で楽しむ奈良」
<http://www.pref.nara.jp/kanko/gokan/108/index.html>

3 宍道湖を五感でチェック (島根県)

宍道湖・中海周辺の湖沼環境を、人の五感による分かりやすい指標を使って、地元の市民モニターや地元中学・こどもエコクラブなどがモニタリング。



宍道湖・中海の環境を五感でチェックしてみよう！
http://www.pref.shimane.lg.jp/environment/kankyo/kankyo/shinjiko_nakaumi/sn_gokan.html

4 みどり香るまちづくり (松本市 (稚内市))

良好なかおり環境の創出を支援する企画コンテスト。H18年度「チョウと香りの森(松本市)」H19年度は「香りとさえずりの杜(稚内市)」が環境大臣賞を受賞。



みどり香るまちづくり企画コンテスト
http://www.env.go.jp/air/akushu/midori_machi/index.html

5 残したい日本の音風景100選

地域のシンボルとして大切に、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境を公募、「残したい日本の音風景100選」が選定された。



残したい「日本の音風景100選」
<http://www.env.go.jp/air/life/oto/>

6 知る区ロード (杉並区)

「杉並という土地の感覚」にふれるきっかけとして、区内を巡るルートと拠点施設を整備。毎年夏休みに開催される、交流イベントは20周年をむかえた。



杉並区「知る区ロード」
<http://www.suginami-siruku.org/>

7 橘のかおりでまち興し (鳥羽市)

ある市民から贈られた、市の木「橘」の苗木、現在までに約5千本が市民の手でまちに植えられ、商工会議所では、かおりを活用した商品開発を進めている。



鳥羽市商工会議所
<http://www.lares.dti.ne.jp/tcc/index.html>



●もっと詳しくご覧になりたい方は…「いい感じ」のまちづくり (本編) をご覧下さい。

感覚環境設計テキスト作成検討会

総合

小林 亨 (座長) 前橋工科大学 大学院 教授 (工学部/工学研究科/建設工学専攻)
井上 成 大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 (三菱地所株式会社都市計画事業室室長)

ねつ

一ノ瀬 俊明 独立行政法人国立環境研究所主任研究員 (社会環境システム研究領域)
村上 暁信 東京工業大学大学院 講師 (総合理工学研究科/環境理工学創造専攻)

光

面出 薫 (株)ライティング・プランナーズ・アソシエイツ 代表取締役
富田 泰行 (株)トミタ・ライティングデザイン・オフィス 代表

かおり

水庭 千鶴子 東京農業大学 講師 (地域環境科学部/造園科学科)
吉武 和文 (有)香りのデザイン研究所 所長 (パフュームデザイナー)

音

田中 直子 宮城学院女子大学 講師
坂本 慎一 東京大学生産技術研究所 准教授

“いい感じ”のまちづくり 概要版

～感覚環境のモノサシをまちづくりに織り込むために～

発行：環境省 水・大気環境局大気生活環境室

作成：感覚環境設計テキスト作成検討会

編集・デザイン：(株)タム地域環境研究所/ (株) LAO



環境省 水・大気環境局大気生活環境室
TEL: 03-3581-3351 (代)
<http://www.env.go.jp>